

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼夜間部	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	小児聴覚障害	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年	学期及び曜時限	後期 6,7時限他	教室名	401
担 当 教 員	堀 一夫	実務経験とその関連資格	大阪府立堺聾学校(大阪府立堺聴覚支援学校)で教諭として勤務した。聾学校教諭1級免許状、言語聴覚士。		

《授業科目における学習内容》

聴覚障がいのある子どもについて、実際の子どもの様子を学びながら、その特性と支援方法について体験的に理解して、必要な知識を身につける。この科目の学習を通して、より良く子ども理解をして指導計画作成をしようとする態度ができる。また、教育現場等での指導計画作成にあたって、言語聴覚士として適切なアドバイスができるようになる。

《成績評価の方法と基準》

学期末試験(100%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

- ・基礎基本プリント、ワークシート、参考資料をその都度配布
- ・教科書 城間将江・鈴木恵子・小淵千絵編 聴覚障害学第3版. 医学書院. 2021年

《授業外における学習方法》

- ・聴覚特別支援学校の見学等については別途案内する。
- ・毎回授業の最初に前回授業内容に係わる小テストを実施するので、復習しておくこと。

《履修に当たっての留意点》

授業で示された課題について、自分で考え、グループで討議し、言語でまとめて表現するということを大切にしてください。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	<聴覚障害の概要>聴覚の機能、聴覚の発達、聴覚の障害とは何かについて説明できる。	パソコン プロジェクター	・配布プリントを読んでおく。
	各コマにおける授業予定	聴覚の機能について、ワークをしながら体験的に学ぶ。そして聴覚の発達(聴性行動反応など)聴覚の障害(難聴の分類など)について学ぶ。		
第2回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	<聴覚障害とハビリテーション1>聴覚障害のハビリテーションの歴史と現状について説明できる。	パソコン プロジェクター	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	聴覚障害のリハビリテーションの歴史(手話口話論争、障害に対する考え方等)について学ぶ。読話などを体験的に理解し、聴覚障害児に対する必要な支援について学ぶ。		
第3回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	<聴覚障害とハビリテーション2>ハビリテーションの概要について理解し、ハビリテーションの全体像が描けるようになる。	パソコン プロジェクター	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	小児聴覚障害のハビリテーションについて、その構成と内容の全体像を学ぶ。		
第4回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	<聴覚障害とハビリテーション3>コミュニケーションモードと指導法について説明できる。	パソコン プロジェクター	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	聴覚障害児への指導方法について、主なものを体験的に学ぶ。		
第5回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	<小児聴覚障害の評価>実際の子どもの様子を想定しながら、総合的発達的な視点から評価ができるようになる。	パソコン プロジェクター	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	聴覚評価、言語評価、コミュニケーション評価、発声発語評価、認知発達評価、情緒社会性評価、初期言語評価、家族間のコミュニケーション評価等を総合的に評価する方法を学ぶ。		

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	<小児聴覚障害の指導・訓練1>小児のハビリテーションについて基本的な考え方を説明できる。	パソコン プロジェクター	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	発音・発語指導、言語指導、聴覚学習について理論的な背景を学習する。また、短期的および長期的見通しをもって指導プログラムを作成する方法について学ぶ。		
第7回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	<小児聴覚障害の指導・訓練2>聴覚活用の実際について、基本的な内容について説明できる。	パソコン プロジェクター	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	聴覚活用の実際について、検査や実際の子どもの様子を学びながら、その方法の基本を身につける。		
第8回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	<小児聴覚障害の指導・訓練3>発音・発語指導の実際(発音指導の基礎、50音)について基本的方法を説明できる。	パソコン プロジェクター	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	聴覚障害児への発音指導の実際について、教材を使って実習しながらその方法の基本を学ぶ。		
第9回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	<小児聴覚障害の指導・訓練4>幼児期(前言語期)の指導の実際について説明できる。	パソコン プロジェクター	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	実際の教材などを通して、幼児期(前言語期)の指導について、聴覚障害と発達的な課題を考えながら、基本的方法を学ぶ。		
第10回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	<小児聴覚障害の指導・訓練5>幼児期(語彙獲得期以降)の指導の実際について説明できる。	パソコン プロジェクター	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	実際の教材などを通して幼児期の指導について、聴覚障害と発達的な課題を考えながら、基本的方法を学ぶ。		
第11回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	<小児聴覚障害の指導・訓練6>学童期の指導について、読み書きの困難さなどの観点から説明できるようになる。	パソコン プロジェクター	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	学童期の指導について、言語指導の観点に加え、読み書きの難しさと指導の工夫について、実際の子どもの様子をふまえながら学ぶ。		
第12回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	<小児聴覚障害の指導・訓練7>学童期の指導について、教科指導、生活指導の面を中心に説明できる。	パソコン プロジェクター	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	学童期の指導について、言語指導の観点に加え、教科指導・生活指導の難しさと指導の工夫について、実際の子どもの様子をふまえながら学ぶ。		
第13回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	<小児聴覚障害の指導・訓練8>重複障害について説明できる。	パソコン プロジェクター	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	聴覚障害と知的障害や自閉症スペクトラム障害などの障害を併せ有する子どもについて、事例を中心に学ぶ。		
第14回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	<小児聴覚障害の指導・訓練9>聴覚障害がある子どもの思春期と障害認識、セルフアドボカシーについて説明できる。	パソコン プロジェクター	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	思春期に課題となることや障害認識、セルフアドボカシーの指導について学ぶ。		
第15回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	<聴覚障害の社会資源>聴覚障害の社会資源について説明できるようになる。	パソコン プロジェクター	・教科書の指定された頁、配布資料(「基礎基本」)を読んでおく。
	各コマにおける授業予定	聴覚障害児をとりまく様々な問題(家庭の協力、生涯発達の支援、バリアフリー、情報保障など)について考えていく。また、学校教育やSTとしての適切なアドバイス法について学ぶ。		